



2019・2020年度 危機管理学部  
「ゼミナール」「危機管理特殊研究」実施プラン

担当教員 資格：准教授 氏名：鈴木秀洋（ひでひろ）  
担当科目 ゼミナール（行政法、地方自治法、災害と法、危機管理特講2）  
領域関連比率 災害：30 パブリック：50 グローバル：10 情報：10  
法学・危機管理学研究比率 法学：50 危機管理学：50  
研究室定員 基準定員14名 + 上載定員3名 = 計17名

### （1）研究テーマ

「多様な一人ひとりが安全で安心して生きていける社会を実現するための法制度設計と運用」

### （2）研究目的

行政実務の現場では日々紛争・対立（危機）が生じ、迅速な判断と解決が求められる。皆さんは現場で直面した課題にどう向き合い、解決を目指しますか？そのための①基礎的な知識・知見（法務・心理・保健医療・福祉・教育等）の修得と②リーガルマインド（法の支配・個人の尊厳原理からの思考）の習得により、実務の最前線で、「今の先の君へ♪」心折れずに進んで行くための土台作りと一緒に取り組もう。真摯に地道に一歩ずつ。

### （3）研究の方法及び内容

【研究の方法】 ①様々な社会問題や実務が直面する課題を収集、②学際的アプローチによる調査（エビデンス）・分析・研究（個人又はグループによる文献・現地調査・ヒアリング等）、③プレゼン・討議、④こうして、具体的対策について提言・レポートをまとめる。

【内容】 様々な社会問題・行政課題（人権、ジェンダー、子ども・子育て、福祉、医療・保健、介護、教育、まちづくり、地域活性化、環境、防災・防犯等）を採り上げ、住民の視点・行政の視点それぞれの立ち位置から具体的に物事を考えていく。

解決のためには、①どんな法制度設計をすべきなのか（国・都道府県・市区町村レベルの対策や行政と警察・消防との役割分担・連携）。②どんな手法で目的を実現するのか（制裁的・経済的・情報的手法等）、③更にその効果をどう測るのか。広く深く考える訓練を重ね、「理論と実務を架橋」する（危機管理行政）。

### （4）卒業論文・卒業研究のトピック例

①児童虐待・DV・ストーカー対応・LGBTs 支援、ジェンダー、②災害要配慮者対応（福祉避難所、避難行動要支援者、受援システム）、地域での防災・防犯力向上、③コミュニケーションスキル向上と合意形成（性同意）プログラム、④子どもの居場所づくり・貧困・いじめ対策、⑤刑事（犯罪）領域と行政領域の架橋、理論と実務の架橋、⑥共生社会の実現、⑦行政の内部統制・コンプライアンス、住民との紛争解決システム、⑧学校・保育事故等におけるハード・ソフトの安全管理、公務員の職務上の注意義務など

## (5) キャリア支援の方法

【人生の伴走】ライフステージ・ライフパズルを想定した支援・研修ワーク（例えば、非婚・結婚（離婚）・出産（不妊）の選択。育児・介護と仕事との両立等）

【公務員等の就職に向けて】論文、討論・面接試験の練習。憲法・行政法等の習得支援

【就職後に向けて】折れない・めげない「レジリエンス」（♪新しい朝必ず）。各分野の社会人先輩との交流・勉強会への参加。悩み事のサポートなど。

## (6) 刊行物刊行予定、行事予定

【刊行】ゼミ論・提言集／【行事】ゼミ後昼食会・食事会、音楽・スポーツ交流会、ゼミ合宿（夏・冬）、自治体職場見学・ヒアリング、外部講師との交流等／【その他】ゼミ員による小中高生への講演、地域防災（避難訓練）・防犯教室、子ども食堂・学習支援、保育園・児童養護施設訪問など

(7) 出願条件・事前準備事項・選考方法（個別説明会 11月5日（火）17:15～18:00・14日（木）16:20～17:05）（HPで詳細アップ）

【出願条件（募集人物像）】：①社会の様々な問題にアンテナを立て関心を持ち、調べ、多角的に検討、②他人の痛みを自分事として感じ考えられる、③他人の意見を聞き、自分の意見を発言、④向上心をもって自己研鑽し、社会を少しでも良くしていこうと考え行動できる人（傍観者でなく）。⑤鈴木 of の生き方・考え方を十分に理解し関心を持っている人（HP 鈴木秀洋研究室 <http://suzukihidehiro.com/>を熟読のこと（論文・講演会等））、⑥行政法・地方自治法受講者が望ましい／【事前準備事項】：①入ゼミ希望者は、学部への入室希望届（第一次）提出前に、[suzuki.hidehiro@nihon-u.ac.jp](mailto:suzuki.hidehiro@nihon-u.ac.jp) まで事前にエントリーメールを送り、個別に選考課題を受け取ること※選考課題が多いので早めの準備が望ましい。／【選考方法】：選考課題レポート [①自己アピール等エントリーシート課題（自らのライフストーリー・自己紹介とこのゼミへの思い・やる気）：50点＋②課題小論文3本：40点] と [③意欲確認面接：10点] を合計して選考する。[課題論文例]「あなたは多様で一人ひとりが安全で安心に暮らせる社会を実現するためにはどのような取組が必要だと考えますか。論文冒頭に、あなたにとっての安全で安心な社会とはどのようなものであるのかの問題設定をした上で論ぜよ。」

## (8) 担当教員のプロフィール

①東京23区管理職として法務（裁判・条例制定等）、総務課長代理（首長秘書）、危機管理課長、男女協働課長、子ども家庭支援センター所長等。②厚労省、内閣府、東京都、川崎市、鎌倉市、札幌市、野田市、世田谷区、目黒区、葛飾区、江東区、新宿区等各種審議会委員、都道府県・市町村アドバイザー、③公法学会、警察政策学会、ジェンダー法学会、子ども虐待防止学会等、③[その他]水泳指導員、保育士、（♪ゆず♪GReeeeN♪ミスチル♪コブクロ♪『宇宙兄弟』『メジャー』『スラムダンク』『ナルト』。タバコ苦手、海山大好き、対等な関係での交流好き、Diversity・Inclusion!）。



以上